

早稲田大学大学院 教育学研究科
2026年度 修士課程入学試験問題の訂正内容

<外国学生入試 専門科目>

【国語教育専攻】

【共通B】 14ページ 本文 20行目

<誤> 傍線部なし

<正> 「外なるはおほゝと笑ふて、お父様私で御座んすといかにも可愛き聲」
の部分に傍線を引く

以上

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目】 【国語教育専攻】

解答上の注意

- 一. 国語教育専攻の入学試験問題は、「専門科目・選択」（配点60％）と「専門科目・共通」（配点40％）とに分かれています。
- ① 「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一～選択八）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
国語科教育研究指導	菊野 雅之	
日本語学研究指導	松本 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
日本語学研究指導	仁科 明	
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	海野 圭介	選択六 古典文学 IV 近世文学
国文学研究指導	天野 聡一	
国文学研究指導	谷口 高志	選択七 中国古典文学
国文学研究指導	内山 精也	
国文学研究指導	五味渕 典嗣	選択八 近代文学
国文学研究指導	和田 敦彦	

② 「専門科目・共通」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（共通A～Bのいずれか一問）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・共通」で 解答すべき問題
日本語学研究指導	松本 正恵	共通A 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	五味渕 典嗣	共通B 近代文学

- 二. 解答用紙は、「問題番号」ごとに一枚使用すること。全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名、ならびに「問題番号」（例「選択八」・「共通A」など）を必ず記入すること。
- 三. 解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
- 四. 問題用紙は「一四枚」（本ページ含む）、解答用紙は「二枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択一」 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから二題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | |
|-----------|------------------|
| A 国民科国語 | B 一読総合法 |
| C 「サクラ」読本 | D 指導と評価の一体化 |
| E 『国語の力』 | F 「情報の扱い方」に関する事項 |
| G 保科孝一 | H 言葉による見方・考え方 |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に論じなさい。

- | |
|------------------------------------|
| I 文部省著作『中等国語』『高等国語』の「国語学習の手引き」作成経緯 |
| J 大村はま国語単元学習の特徴 |
| K 荒木繁と教育科学研究会の論争 |
| L 高校選択科目「国語表現」の歴史の変遷 |
| M 綴り方・作文論争における国分一太郎の主張 |
| N PISA読解力調査のねらいと特徴 |

三、今後のデジタル教科書の効果的な扱い方と課題について、校種を明確にした上であなたの考えを述べなさい。ただし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域について、それぞれ具体的な実践像を例示しながら論じること。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。

（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

- | | | | | | |
|---|------|---|--------------|---|---------|
| A | 契沖 | B | 『ロドリゲス日本大文典』 | C | ヴォイス |
| D | 開合 | E | 漢文訓読文 | F | 気づかない方言 |
| G | 神代文字 | H | ソシユール | I | ターン |
| J | 音便 | K | 受給・受益の表現 | L | TPR |

二次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。

（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

- M 係り結びの機能とその崩壊過程について
N 多義語と同音・同訓異義語の境界について
O 日本語における動詞の自他（自動詞・他動詞）の問題について

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義・研究の応用可能性等について多角的に述べなさい。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択三」 古典文学（I） 上代文学問題

一、次の（A）～（D）のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- （A）『古事記』の三巻構成
- （B）『先代旧事本紀』の成立と概要
- （C）「出雲国造神賀詞」の成立と概要
- （D）『万葉集』所収歌の時代区分

二、次の（E）～（L）のうちから、三題を選択して簡潔に（一題あたり解答用紙五行以内を目安に）説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|
| （E）神阿多都比売 | （F）国引き神話 | （G）迦毛大御神 | （H）夜刀神 |
| （I）七夕歌 | （J）筑紫歌壇 | （K）春愁三首 | （L）安騎野遊獵歌 |

三、上代文学作品の享受史を踏まえ、現代においてそれを研究する意義と、志願者自身の研究テーマや研究方法について、具体的かつ簡潔に述べなさい（解答用紙一〇行以内）。

（上代文学問題 以上）

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択 四〕 古典文学(Ⅱ) 中古文学

解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』の「昔男」と在原業平
- (B) 『紫式部日記』の特質
- (C) 『源氏物語』の三部構成
- (D) 『源氏物語』における禁忌の恋と物語の展開

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『大和物語』(F) 『一条摂政御集』(G) 『浜松中納言物語』
- (H) 『栄花物語』(I) 『更級日記』(J) 『讃岐典侍日記』
- (K) 紀貫之 (L) 物語文学における話型
- (M) 平安時代の文学における召人

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学（Ⅲ） 中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。
なお、解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

- ①院政期から鎌倉前期の政治と文学について
- ②南北朝から室町期の政治と文学について
- ③勅撰和歌集の成立と和歌の家の動向について
- ④仮名で書かれた中世散文文学の特質について
- ⑤漢籍の受容と中世文学の生成について
- ⑥王朝物語の享受と中世文学の生成について
- ⑦中世における宗教と文学について
- ⑧中世における女性作者の文学について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。
なお、解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

- ①宇治拾遺物語
- ②発心集
- ③建礼門院右京大夫集
- ④平家公達草紙
- ⑤新古今和歌集
- ⑥詠歌大概
- ⑦竹むきが記
- ⑧鼠の草子
- ⑨両度聞書
- ⑩曾我物語

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択六〕 古典文学（Ⅳ） 近世文学

一、次の①～④の中から二題を選択して、文学史的な視座から詳しく論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- ① 近世期における書籍の出版・流通について
- ② 近世期における政治改革と文学との関わりについて
- ③ 近世期における書簡の果たした文化的役割について
- ④ 近世期における『伊勢物語』研究の変遷について

二、次の①～⑦の中から三題を選択して、文学史的な視座から簡潔に（一題あたり解答用紙五行以内）説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- ① 仮名草子
- ② 赤穂事件
- ③ 賀茂真淵
- ④ 『雨月物語』
- ⑤ 蔦屋重三郎
- ⑥ 『南総里見八犬伝』
- ⑦ 尊皇攘夷運動

三、近世文学を学校教育で学ぶ意義について、具体的かつ簡潔に（解答用紙一〇行以内）考えを述べなさい。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択七〕 中国古典文学 問題

□ 次の文を読んで、設問に答えなさい。

山不在高、有_レ僊則名。水不在深、有_レ龍則靈。斯是陋室、惟吾德馨。
苔痕上_レ階綠、艸色入_レ簾青。談笑有_レ鴻儒、往來無_レ白丁。可以調_レ素琴、
閱_レ金經。無_レ絲竹之亂_レ耳、無_レ案牘之勞_レ形。南陽諸葛廬、西蜀子雲亭。
孔子云、何陋之有。

〔注〕・白丁……無位無冠の民。 ・金經……仏典。 ・案牘……行政文書や書類。

〔設問一〕 右の全文を、書き下し文、または拼音^{ピンイン}に改めよ。

〔設問二〕 右の全文を、現代語訳せよ。

〔設問三〕 傍線部「西蜀子雲」とは誰のことか。その氏名を記した上で、その人物の文化史的意義について知る所を記せ。

〔設問四〕 右文の作者は、劉禹錫である。劉禹錫の生きた時代を明らかにした上で、その文学史的功績について説明せよ。

□ 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 「唐詩、宋詞、元曲、明清小説」説について
イ 江戸時代における唐詩と宋詩の争いについて
ウ 「小説」という語の、中国における伝統的意味と近代的意味の相違について
エ 「漢文」が「国語」に含まれる理由について
オ 日本漢詩文の、国語教材としての意味について

□ 次の(A)～(L)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

- | | | |
|--------------|-------------|----------------|
| (A) 五臣注『文選』 | (B) 「古詩十九首」 | (C) 陶淵明「五柳先生伝」 |
| (D) 齊梁体 | (E) 李絶杜律 | (F) 元輕白俗 |
| (G) 江西詩派 | (H) 江湖詩派 | (I) 白行簡「李娃伝」 |
| (J) 瞿佑『剪灯新話』 | (K) 『爾雅』 | (L) 朱熹『四書章句集注』 |

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

「選択Ⅷ」 近代文学

一 日本の近代文学とメディアとのかかわりについて、あなたの考えるところを述べな
よ。

二次の(A)～(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 明治期の政治小説について
- (B) 『赤い鳥』と児童文学について
- (C) 「小説の筋」論争について
- (D) 転向文学について
- (E) 日本近代文学における検閲と言論統制について

三次の(A)～(G)の中から三題を選択して説明しなさい。

(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- (A) 二葉亭四迷 (B) 「破戒」 (C) 『明星』 (D) 『文芸時代』
- (E) 林芙美子 (F) 「夏の花」 (G) 「仮面の告白」

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

〔共通A〕 日本語学（含日本語教育） 松木正恵

次の文章は、森田良行『日本語の視点——ことばを創る日本人の発想——』（創拓社 一九九五年）の第11章「日本的な使役の表現」の一部である。（部分的に省略したところがある。）この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「使役」と聞くと、一般的に、「ある人が他の誰かに何かをやらせること」を想像する。確かに「娘に買い物に行かせた」と言えば、他者を使役することであるが、このような典型的な使役行為はむしろ稀で、日本語の使役表現はもっと心理的なニュアンスが強い。受身や自発の「られる」と比較してみると、その意味の類似点がよくわかる。例えば、

うまそうな匂いに食欲をそそられる。

と例えば、「そそられる」で受身ないしは自発の意味だが、この「そそられる」を「そそらせる」と換えてみたところで、やはり自発の意味であることに変わりはない。うまそうな匂いに食欲をそそらせる。

前章の説明を借りれば、「うまそうな匂い」が上位者となって、話し手の心をいやが応でもひきつける。弱き下位者である話し手が一方的にそそられてしまう。「受身」は、同時に、おのずと食欲をそそる「自発」でもある。

（中略）

さて、日本語の「せる」には以上のように自発・誘発の気分が濃厚なため、「自然に、本能的に」あるいは「条件反射的に」といった状況の場面で用いられることがよくある。

- 「あまりの素晴らしさに私たちをうっとりさせる」
- 「いまさらのように思い出させるのであった」
- 「つい立ち止まらせる素敵なショーウィンドー」
- 「観衆をうならせる名演技」
- 「観るものをはらはらさせる危険なショー」
- 「敵愾心に心を奮い立たせる」
- 「聞かせる喉」「読ませる小説」
- 「泣かせるねえ」「笑わせるな」

いずれも無意識のうちにそのようになっていく状況の表現である。誘発の意味を表す「させる」は、外なる力が内なる「私たち」にある働きを及ぼす他動現象で、その点では全体で一つの他動詞と同じ働きをしていると言っている。

（中略）

このように、動詞に付いて他動詞相当の意味を組み立てる「させる」から、「買い物に行かせる」のような命令に近い「使役」、さらには行くことを許す「許容」、そして、「はらはらさせる」「思い出させる」の「誘発」、これはそのまま「られる」の「自発」や「受身」表現へとつながり、「A」「B」

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【国語教育専攻】
「専門科目・共通」

へと進行していく。日本語の文表現での品詞の出現順序を示す例として、(中略)

辞めさせられなくなつたらしいわよ (ね)。

は、動詞から動詞的接尾辞(複語尾)、助動詞、そして終助詞へという具合にだんだん変わっていくのだが、これまで見てきたように、意味の上からも他動詞がそのまま「させる」へと重なり、「させる」はまた「られる」と紙一重でつながっていくところが面白い。

これらの語の意味は、話し手の表現意識に深く関わっているから、例々「外」対「内」の関係で、次第に文末に近づくにつれて、「外」よりも「内」の要素が強まっていくなのである。それがやがては助動詞から助詞へと移行し、性(助詞「わ」)や心(助詞「よ」「ね」といった内なる話し手の在り方に収斂して、文意を結ぶものと考えてよい。

(中略)

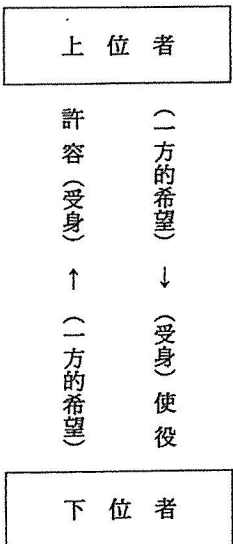
さて、先に「買い物に行かせる」の例で、いわゆる強制的な命令に近い「使役」と、もっと緩やかな、行く行為を認める「許容」の意味と、二通りの解釈が成り立つと述べた。例えば、

いつも太郎ばかりで気の毒だから、たまには次郎にも買い物に行かせよう。

の例では、「買い物に行く」ことが好ましい喜ぶべき行為なのか否か、それを太郎や次郎がどのように考えているのかが、解釈の決め手となる。苦痛に感じる嫌な親の言いつけなら、「次郎に行かせる」ことは強制的な命令の「C」となる。また、もし太郎も次郎も行きたがっているうれしいショッピングであるなら、これは次郎にも出かける希望をかなえさせてやる「D」となる。

「気の毒」の対象は、前者の解釈では「E」、後者では「F」というふうに分かれるが、言葉の解釈というものは、文を構成するすべての語彙の緊密な連携のうえに成り立っているわけで、互いに抜き差しならぬ意味関係にあることの、これは良い証明となる。文法とは決して語同士の形式的な接続関係といった無味乾燥なルールではなく、このように意味と密接に絡んだ素晴らしい生き物なのである。

「させる」が使役と許容の二手に分かれるといっても、それは「内」「外」の関係における上位者と下位者の間の意識の問題に過ぎない。



「許容」はこの図のように、本来下位者の側からの働きかけに対して上位の立場にある者がその希望を認め受け入れる行為である。「使役」といい「許容」といい、一方の側から発する希望の受け止めであるから、これらの表現は意志的なものではない。ところが、古典文学などでは、時に、非意志的な「許容」が現れる。

畠山五百餘騎でやがてわたす。むかへの岸より山田次郎がはなつ矢に、畠山馬の額をのぶかに射させて、よはれば、河中より弓杖をつゐておりたったり。

射

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

「馬の額をのぶかに^射きさせて」とは、馬の額のところを^{のぶ}深（^{やぶ}深）は矢の竹の部分）つまり矢が額深く食い込むほどに射られることである。それを「射させて」と表現したのは、「矢が当たることを心ならずも容赦して」という許容の意味に用いたものであろう。これは決して意志的ではない。自己の意志に反する「させ」の用法に、「敵に射させてしまったよ」という後悔と無念さがにじんでいる。

現代語でも非意志の「させる」は結構多い。先づ「びっくりさせる」のような「誘発」の「させる」もそうであるが、結果としてある状況に相手を置いてしまう「させる」、例えば、

「やあ、待たせたね。ごめん、ごめん」

と言うとき、「待たせた」ことは決して意図的な命令的使役ではない。たまたま相手が先に来てしまったから待たせる結果になったままで、「待っている」などと命令したわけではない。あるいは、約束の時間に遅れたのではなく、むしろ早めに到着したのかもしれない。しかし、どんなにこちらが早めについても、相手がそれ以上で早ければ、やはり「待たせる」ことになるわけだ。「させる」にはこのような無作為の使役もあるのである。「待つ」の例をもう少し詳しく見てみよう。「待つ」には、

生徒が先生を待った。

↓ 先生は生徒を待たせた。

↓ 生徒は先生に待たされた。

の関係が成り立つ。もちろん先生が意図的に待たせたとは限らないのだが、生徒が先生のおいでを待つという事実は変わらない。それをどちらの立場で表現するか、「待つ」ことに対する意識の違いが、三つのうちのいずれかの表現形式を選ばせる。では、「笑う」はどうか。「待つ」場合と全く同じ形で、機械的に文型を交換すると、

生徒が先生を笑った。

↓ 先生は生徒を笑わせた。

↓ 生徒は先生に笑わされた。

と一応はなるが、笑わせたり、笑わされたりすることは、先生が冗談などと言って生徒を笑わせる場合を連想する。先生が嘲笑の的になることではない。だから「生徒が先生を笑った」とは文意に違いがあるわけである。むしろ「生徒」と「先生」との順序を逆にして「先生は生徒に笑われた」と受身で表せば、文意は同じになる。いったいこれは何を意味しているのだろうか。

「させる」は、二者の人間関係で相手に何かをやらせる本格的な「使役」もあれば、単に相手をそのかしたり、仕向けたりする消極的な誘発行為もあるということだ。それが「笑う」のように、二者間の相互関係を前提としない一種の生理現象などでは、使役・誘発どちらにも作用するということであらう。「させる」が持つ微妙な意味の兼ね合いが、奇しくも表現の形式といった外形面に現れた一つの事例といつてよい。言葉の意味とは実に味わい深く、奥の深いものである。

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
「専門科目・共通」 【国語教育専攻】

問1 カギ括弧「A」「B」にそれぞれふさわしい漢字二字の術語（文法用語）を入れなさい。

問2 傍線部①は、「文法カテゴリーの層状構造」について、その要素の配列順序にある傾向が見られる点を、「外」「内」の視点から述べたものである。この「外」「内」の視点で説明された「文法カテゴリーの層状構造」の特徴について、具体的な例文を挙げながら、「詞」「辞」や「客観的」「主観的」等の術語を用いてわかりやすく説明し直しなさい。

問3 傍線部②の「性（助詞「わ」「心（助詞「よ」「ね）」について、助詞「わ」を「性」の観点から、助詞「よ」「ね」を「心」の観点から説明しなさい。

問4 カギ括弧「C」「D」に当てはまる漢字二字の術語（文法用語）を、文脈から考えてそれぞれ入れなさい。

問5 カギ括弧「E」「F」に、「太郎」か「次郎」か適切な方を入れなさい。

問6 ③ おさせて は、「非意志的な「許容」とされる「させ」を用いた表現だが、このような表現は古典文学には時々現れることがあるとはいっても、この文脈であれば、むしろ、これとは異なる別の助動詞（接尾辞）を用いた表現にするのが一般的かと思われる。その一般的と思われる方の表現を「あ（射）」に続けて書き込みなさい。

問7 傍線部④の「文意に違いがある」とは、何と何のあいだにどのような違いがあるということか。（ここで挙げられている例文を用いて具体的に説明しなさい。）

問8 傍線部⑤は、この文章の筆者である森田良行氏の見方だが、この見方に対する自分の考えをまとめなさい。

問9 傍線部⑥に「使役・誘発どちらにも作用する」とあるが、このような「させる」の二面性は、「笑う」だけでなく「待つ」にも見られるはずだが、両者の違いはどこにあると思うか。また、なぜそのような違いが生じると思うか。動詞の性質を踏まえながら論じなさい。

以上

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 外国学生入学試験問題

「専門科目・共通」

【国語教育専攻】

【共通 B】（五味淵典嗣）

○次に示すのは、樋口一葉『十三夜』の冒頭の場面である。文章を読んで、後の問いに答えよ。

（上）

例は威勢よく黒ねり車の、それ門に音が止まつた娘ではないかと、兩親に出迎はれつる物を、今宵は辻より飛のりの車さへ歸して悄然と格子戸の外に立てば、家内には父親が相かはらずの高聲、いはゞ私も福人の一人、いづれも柔順しい子供を持つて育てるに手は懸らず人には褒められる、分外の欲さへ渴かねば此上に望みもなし、やれ／＼有難い事と物がたられる、あの相手は定めし母様、あゝ何も御存じなしに彼のやうに喜んでお出遊はす物を、何の顔さげて離縁状もらふて下されと言はれた物か、叱かられるは必定、太郎と言ふ子もある身に置いて驅け出して来るまでには種々思案もし盡しての後なれど、今更にお老人を驚かして是れまでの喜びを水の泡にさせます事つらや、寧ろ話をしに帰らうか、戻れば太郎の母と言はれて何時／＼までも原田の奥様、御兩親に奏任の掣がある身と自慢させ、私さへ身を節儉れば時たまはお口に合ふ物お小遣ひも差あげられるに、思ふまゝを通して離縁とならば太郎には繼母の憂き目を見せ、御兩親には今までの自慢の鼻にはかに低くさせまして、人の思はく、弟の行末、あゝ此身一つの心から出世の眞も止めずばならず、戻らうか、戻らうか、あの鬼のやうな我良人のもとに戻らうか、彼の鬼の、鬼の良人のもとへ、ゑゝ厭や厭やと身をふるはす途端、よろ／＼として思はず格子にがたりと音さすれば、誰れだと大きく父親の聲、道ゆ

く悪太郎の悪戯とまがへてなるべし。
外なるはおほ／＼と笑ふて、お父様私で御座んすといかにも可愛き聲、や、誰れだ、誰れであつたと障子を引明て、ほうお開か、何だな其様な處に立つて居て、何うして又此おそくに出かけて来た、車もなし、女中も連れずか、やれ／＼早く中へ這入れ、さあ這入れ、何うも不意に驚かされたやうでまご／＼するわな、格子は閉めずとも宜い私が開める、兎も角も奥が好い、ずつとお月様のさす方へ、さ、蒲團へ乗れ、蒲團へ、何うも盛が汚ないので大屋に言つては置いたが職人の都合があると言ふてな、遠慮も何も入らない着物がたまらぬから夫れを敷ひて呉れ、やれ／＼何うして此遅くに出で来たお宅では皆お變りもなしかと例に替らずもてはやさるれば、針の席にのる様に奥さま扱ひ情なくじつと涕を呑込で、はい誰れも時侯の障りも御座りませぬ、私は申譯のない御無沙汰して居りましたが貴君もお母様も御機嫌よくいらつしやりますかと問へば、いや最う私は噁／＼せぬ位、お袋は時たま例の血の道と言ふ奴を始めるが、夫れも蒲團かぶつて半日も居ればけろ／＼とする病だから子細はなしと元氣よく何々と笑ふに、亥之さんが見えませぬが今晩は何處へか参りましたか、彼の子も替らず勉強で御座んすかと問へば、母親ははた／＼として茶を進めながら、亥之は今しがた夜學に出て行きました、あれもお前お蔭さまで此間は昇給させて頂いたし、課長様が可愛がつて下さるので何れ位心丈夫であらう、是れと言ふも矢張原田さんの縁引が有るからだとして宅では毎日いひ暮して居ます、お前に如才は有るまいけれど此後とも原田さんの御機嫌の好いやうに、亥之は彼の通り口の重い質だし何れお目に懸つてもあつけない御挨拶よりほか出来まいと思はれるから、何分ともお前が中に立つて私どもの心が通じるやう、亥之が行末をとお頼み申て置てお呉れ、ほんに替り目で陽氣が悪ければ太郎さんは何時も悪戯をして居ますか、何故に今夜は連れてお出でない、お祖父さんも懸しがつてお出なされた物と言はれて、又今更にうら悲しく、連れて来やうと思ひましたけれど彼の子は宵までひで最う疾うに

寐ましたから其まゝ置いて参りました、本當に悪戯ばかりつゝのりまして聞わけとて少しもなく、外へ出れば跡を追ひますし、家内に居れば私の傍ばかり覗みて、ほんに／＼手が懸つて成ませぬ、何故彼様で御座りませうと言ひかけて思ひ出しの涙むねの中に漲るやうに、思ひ切つて置いては来たれど今頃は目を覺して母さん母さんと婢女どもを迷惑がらせ、煎餅やおこしの珍しも利かて、皆々手を引いて鬼に喰はすと威嚇して居やう、あゝ可愛さうな事をと聲たてゝも泣きたきを、さしも兩親の機嫌よげなるに言ひ出かねて、烟にまぎらす烟草二三服、空咳こん／＼として涙を襟袂の袖にかくしぬ。

問一 傍線部「外なるはおほ／＼と笑ふて、お父様私で御座んすといかにも可愛き聲」とあるが、この表現からは「お關」のどんな思いが読み取れるか、あなたの考えを述べなさい。

問二 この場面の語りの特徴について、本文中の表現を根拠に挙げながら、あなたの考えを述べなさい。

研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙
【専門科目】 【国語教育専攻】

大学記入欄

問題番号
選択 ()

↑ 裏面を使用する場合に「」から記入する「」

↑

↑ 1111612

↑

研究指導	
教員名 ()	
受験番号	
氏 名	

受験番号	
------	--

二〇二六年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験 解答用紙
【専門科目】 【国語教育専攻】

【国語教育専攻】

大学記入欄

共通
()

裏面に続く

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

↑

↑ 1111616 ↑

↑